



SAMS Information

The University of Tokushima Graduate School, Institute of Health Biosciences,
Support Center for Advanced Medical Sciences (SAMS)

No. 92
2014/9/26

第104回 HBS研究部 先端医研テクニカルセミナー

NGS解析に向けたliquid biopsy からの遊離DNA精製と、高品質核酸を維持する病理組織検体システムPAXGENE Tissue System

総合研究支援センター 先端医療研究部門では、皆様の研究にお役に立つようなテクニカルセミナーをシリーズで開いております。

次世代シーケンサー(NGS)の技術確立により、これまでは不可能だった臨床検体を使った研究が期待されています。今回のセミナーでは、解析困難な臨床検体から NGS アプリ応用に関して、QIAGEN が持つ2つのソリューションをご紹介します。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	: 平成26年10月28日(火) 16:00 ~ 17:00
場 所	: 第一カンファレンス室(医学基礎A棟1階西)
講 師	: 岡野 和弘(株式会社キアゲン マーケティング)

プログラム

- 16:00 ~ 16:05 はじめに 先端医療研究部門 部門長 井本 逸勢
- 16:05 ~ 17:00 NGS解析に向けたliquid biopsyからの遊離DNA精製と、高品質核酸を維持する病理組織検体システムPAXgene Tissue System 岡野 和弘

概 要

Liquid biopsy からの遊離DNA精製: 血液中遊離DNAは、がん分野で術後の非侵襲性のモニタリングツールとして期待されています。しかし、遊離DNAは血液中に微量しか存在せず、断片化も進んでおり、従来の精製方法での精製効率も、非常に低くなっています。この微量の遊離DNA精製を可能としたQIAamp Circulating NA Kit のご紹介をいたします。

FFPE と同等の組織像が得られ、高品質核酸精製が可能な新規固定化技術: FFPE は、ホルマリンの為、DNA、RNA の分解が進み分子解析の妨げとなっています。QIAGEN が開発した PAXgene Tissue System は、FFPE と同等の組織像が得られ、高品質の核酸精製も可能となり、アメリカ NCI のプロジェクトで RNA-seq を念頭に置いた病理検体処理に採用されています。

今回はこの製品の基本情報とNGSへの応用をご紹介します。

